

まぶるると云は、敵我手近くなつて、互いに強くはりあひて、はかゆかざると見れば、其儘敵とひとつにまぶれあひて、まぶれあひたる其うちに利を以て勝事肝要なり。互にわけなくなるやうにして、其うち徳を得、其内の勝をしりて、つよく勝事専也。よくよく吟味あるべし。

【大体の意味内容】。「まぶれる」というのは、敵とわれとが間近になり、お互いに強く張りあつて、決着がつかなくなつたと判断したときには、そのまま敵とひとつになつて互いからまわりあうことだ。そうしたなかで思いがけず発動した利に乗じて勝つことが重要である。互いに分離できないような状況の中で、神憑りのな徳を利用してしようとすること。「勝負がつかない、引き分けにしよう」と相手が考えたら、その瞬間こそが「勝時」である。ホツとするときにこそ、最後の全力を振り絞つて打ち勝つことに専念せよ。よくよく吟味修練すべきである。

乱戦になったときは、それをへたに整理しようとか、体制を立て直そうとかせず、そのままぐちゃぐちゃになつてしまえ、ということですよ。疲れたら、より一層疲れきつてしまおうとすること。苦しければ、むしろ徹底的に苦しみぬこうとすること。乱れれば、きちがいじみるほど乱れてしまうこと。いわゆる「スマート」な対応とはほど遠い、真逆の生命燃焼を命ずるものです。救いようのない狂気に身を任せつつ、頭の芯では冷たい理性を保つて、狂っている自分を見つめること。すべては、勝つため。誰か他人に勝つというよりも、弱気の蛆がわいて、あきらめてしまつ自分に勝つためです。力は、温存しようなどと考えず、出しきつてしまつ覚悟で力み通せば、限界を超えて、かえつて無駄な力が抜けて、自分にとって最も効率的で合理的な働きを発揮するようになることもあります。まるで神憑りしたような感覚で、一流のアスリートたちが、「ゾーンに入る」と言っている、アスです。とにかく不器用でも何でもいいから、頑張れるときに頑張の通つてみてくだわい。きつと一度は、「ゾーンに入る」体感を得られるべしよ。